

産婦人科医のための



尖圭コンジローマの鑑別診断の手引き

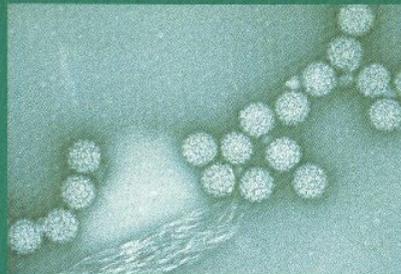
監修：長野赤十字病院 副院長 菅生 元康

はじめに

尖圭コンジローマは、ヒト乳頭腫ウイルス (human papillomavirus: HPV) の主に6型、11型の感染により外陰部に腫瘍性病変をもたらす感染症であり、癌に進展することはないと考えられています。

類似疾患としては、小さな乳頭腫が小陰唇内側に密集、又は散在性にみられる良性の陰前庭乳頭腫症や、色素沈着を伴いHPV16型が検出されるポーエン様丘疹症などがあり、これらの疾患は、尖圭コンジローマと鑑別診断する必要があります。

この手引きでは、尖圭コンジローマおよび日頃目にされるであろう類似疾患の特徴について症例写真を交えて紹介しますので、日常診療の一助にいただければ幸いです。



HPV6型のウイルス粒子



MOCHIDA

尖圭コンジローマ治療薬

処方せん医薬品*

ベセルナクリーム5%

効能・効果

尖圭コンジローマ (外性器又は肛門周囲に限る)

用法・用量

疣贅部位に適量を1日1回、週3回、就寝前に塗布する。塗布後はそのままの状態を保ち、起床後に塗布した薬剤を石鹸を用い、水又は温水で洗い流す。

(用法・用量に関連する使用上の注意)

本剤の使用にあたっては、重度の炎症反応が局所にあられることがあるので次の点に十分注意すること。

1. 本剤は外性器又は肛門周囲の疣贅にのみ使用し、それ以外の部位の疣贅には使用しないこと。
2. 本剤塗布後6~10時間を目安に必ず洗い流すこと。(塗布時間の延長により、重度の皮膚障害があらわれやすくなる。)
3. 本剤の連日塗布を避け、例えば月・水・金、あるいは火・木・土の週3回塗布とすること。
4. 本剤を疣贅に薄く塗り、クリームが見えなくなるまですり込むこと。

なお、本剤の使用期間は原則として16週間までとすること。

表6 イミキモドクリームの効果パターン

パターン1	強い炎症反応(発赤・びらん)が起こって消える ●比較的早期に起こるが、休業すると再発しやすい?
パターン2	疣贅が膨張してから崩壊する ●大きな病変に見られる ●反応が遅い ●無効例、増悪例?
パターン3	平定化して消える ●風船がしぼむイメージ ●炎症反応が弱い ●再発しづらい ●理想的なパターン
課題： 疣贅消失パターンと作用機序の関係は？ 疣贅消失の基準を明確に示す必要	

2008年版

ファーストライン

- 凍結療法
- イミキモド5%クリーム(ベセルナクリーム5%)の外用
- 三塩化酢酸(二塩化)の外用：試薬と明記
- 電気焼灼

セカンドライン

- レーザー
- IFNの局注：保険適応外と明記

その他：本邦で未発売と明記

- ポドフィリンアルコールの外用 → 5~6時間内洗浄
 - ポドフィロックスの外用
- ※灰色部分：保険適応外もしくは日本で未発売

(2)その他の副作用

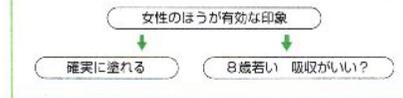
	5%以上	5%未満	頻度不明
過敏症	発疹		
皮膚	紅斑、浮腫、表皮剥離、びらん、潰瘍、痂皮、疼痛、刺戟感、掻痒感	小水疱、亀裂、出血、痂皮、不快感	灼熱感、圧痛、刺痛、過敏、色素沈着、色素脱失、発疹、乾燥、炎症、滲漵、ビリビリ感、痒痒、膿液性滲出液、腔部白癬、滲出液、痂皮の乾燥、滲出液、疣贅の淡色化
その他		単純ヘルペス、頭痛、痔核の悪化、排便痛、アトピー性皮膚炎の悪化	めまい、発熱、筋肉痛、疲労、インフルエンザ様症状、嘔気、下痢

表8 休業時の注意点

- びらん・潰瘍は突然起こる**
- 使用開始時から何度も伝えておく
 - 効果の出始めまでのこの時期こそ大事にしたい
- 休業しても最終的な効果は変わらない**
- 患者の不安を和らげる
- 厳重な管理**
- 頻繁な再診・電話連絡を緊密に
 - できるだけ1週間以内にイミキモドクリーム再開
 - 再開時には接触時間を短縮する(6~7時間)
- 脱落防止に努める**

表5 疣贅の縮小と消失までの期間(週)

		合計	男性	女性
≥1/3縮小	塗布回数(最小~最大)	1~16	1~16	1~16
	平均塗布回数	4.1	4.4	2.8 p<0.05*
完全消失	塗布回数(最小~最大)	1~28	1~28	1~21
	平均塗布回数	7.6	8.2	5.9 N.S.

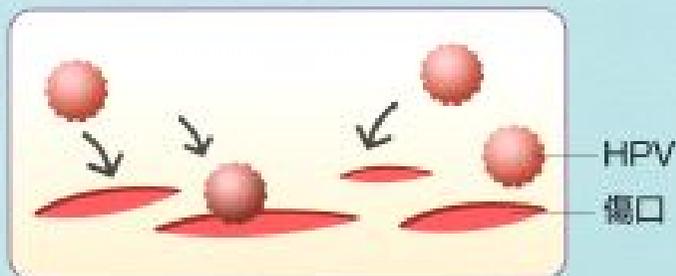


* t-test

尖圭コンジローマについて

① 尖圭コンジローマの原因

- HPV (ヒトパピローマウイルス)の感染。
- セックスやそれに類似する行為により、皮膚や粘膜にある小さな傷から侵入して感染。



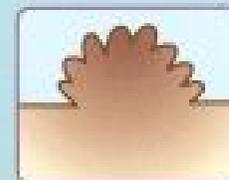
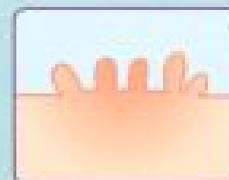
- HPVが感染した後、約3週間～8カ月(平均2.8カ月)の潜伏期間を経て発症。

② 自覚症状

- 自覚症状はほとんどありませんが、時にかゆみや痛みを感じることも。

③ イボの特徴

- 色は白、ピンク、褐色(黒っぽい茶色)、時には黒色。
- 大きさは径2～3ミリから1センチ前後。
- イボ状、ニワトリのトサカやカリフラワーのような状態になることも。



➔ 治療の重要性

- ① 尖圭コンジローマを放置しておくと、大切なパートナーに感染させる恐れがあります。
 - 「パートナーの3人に2人の割合で、9カ月以内に感染」との報告があります。
パートナーにも検査・治療を受けてもらいましょう。
- ② 治療せずに放っておくとイボが増え、患部が広がったり、大型化して治療が難しくなる場合があります。
- ③ 悪性型のウイルスが潜んでいる可能性もあります。
 - 尖圭コンジローマは主に良性型のウイルスが原因といわれていますが、悪性型のHPVが同時に発見されることがまれにあります。

せん けい

尖圭コンジローマのさまざまな治療法

① 薬による治療法*

ベセルナクリーム5%は世界の75以上の国と地域で使われている塗り薬で、健康保険が適用されます。病院で処方してもらい、自分でイボに直接ぬって治療できます。



② 外科的な治療法

いずれも外来で行われる小手術あるいは日帰り入院手術として行われます。痛みを伴ったり、傷跡が残る可能性があります。



凍結療法*

麻酔はせずにイボを液体窒素で何回か凍らせて取り除く治療法です。

電気焼灼*

イボの周囲に麻酔をして、電気メスで焼く治療法です。

炭酸ガスレーザー蒸散

イボの周囲に麻酔をして、レーザー光線を取り除く治療法です。

外科的切除

イボの周囲に麻酔をして、メスで切除する治療法です。

#) ポドフィリン

⇒ 外科的な治療法と薬物による治療法の比較

治療法	薬物療法	外科的療法			
	ベセルナクリーム5%*	凍結療法*	電気焼灼*	レーザー蒸散	外科的切除
治療対象となるイボの 大きさや個数の目安	大きさ:小～大型 個数:多発例も可	大きさ:小型 個数:少ない	大きさ:小～中程度 個数:多発例も可	大きさ:小～中程度 個数:多発例も可	大きさ:小～大型まで可 個数:多発例も可
通院頻度の目安	1～2週間に1回程度	通常1～2週に 1回程度	――	――	――
治療期間(回数)の目安	平均で約2カ月程度 (原則は最大4カ月)	3カ月程度 (半年以上要する 場合もあり)	通常1回程度 (繰り返し治療が 必要な場合もある)	通常1回程度 (繰り返し治療が 必要な場合もある)	通常1回程度 (繰り返し治療が 必要な場合もある)
治療後の再発率	13%(3カ月後)	21～37.5%(3カ月後)	24～25%(3カ月後)	33%(2カ月後)	18%(3カ月後)
特別な装置(設備)	不要	不要	必要	必要	必要

★:「性感染症 診断・治療ガイドライン2008」(日本性感染症学会発行)において、「ファーストライン」として分類されている治療法

川崎 眞:臨床医薬,2006,22(4),353-358

ベセルナクリーム5%について

➔ 組成・性状

- [商品名]
ベセルナクリーム5%
- [成分・含量]
1包(250mg)中
イミキモド12.5mgを含有
- [色調・剤形]
白色～微黄色・クリーム剤



➔ 用法・用量

患部部位に適量を**1日1回、週3回、**
就寝前に塗布する。塗布後はそのままの
状態を保ち、起床後に塗布した薬剤を石鹸を用い、
水又は温水で洗い流す。

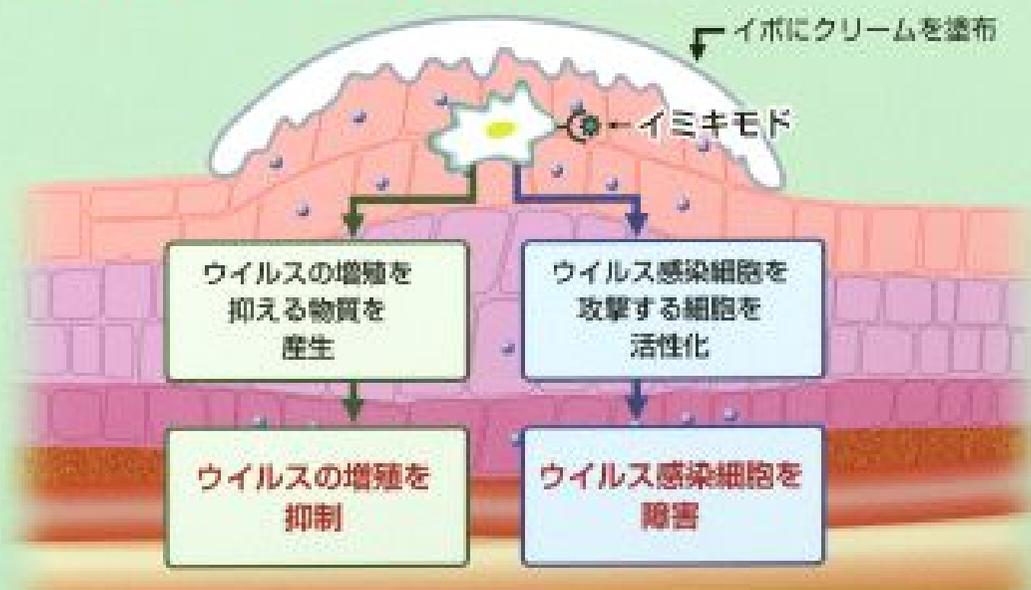


週**3**回

1日1回
就寝前

➔ 作用機序など

ウイルスから身体を守る能力(免疫能)を高め、尖圭コンジローマの
原因であるHPV(ヒトパピローマウイルス)の増殖を抑制したり、
ウイルスが感染した細胞を障害することでイボを治します。



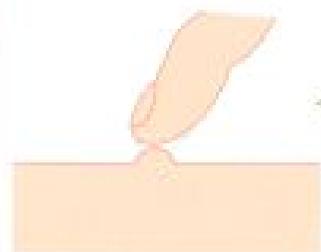
➔ ベセルナクリームの正しいぬり方

1



このお薬は就寝前に使用します。ベセルナクリームの包みを開けて、指先にお薬を適量しぼり出してください。

2



ベセルナクリームをイボの部分(患部)にのみ、うすくぬってください。(腔口及び尿道口付近にぬった場合には、はれや痛みにより排尿困難となることがあります。また、見えにくい場所にイボがあるときは、手鏡などで確認しながら、患部のみぬるようにしてください。)

3



ベセルナクリームが見えなくなるまで、やさしく患部にすり込んでください。患部は絆創膏やテープなどでおおわないようにしてください。

4



お薬をぬった後、必ず手指を石けんでよく洗ってください。

5

6~10時間



ベセルナクリームをぬったまま6~10時間保ち、この間は患部を洗わないでください。

6

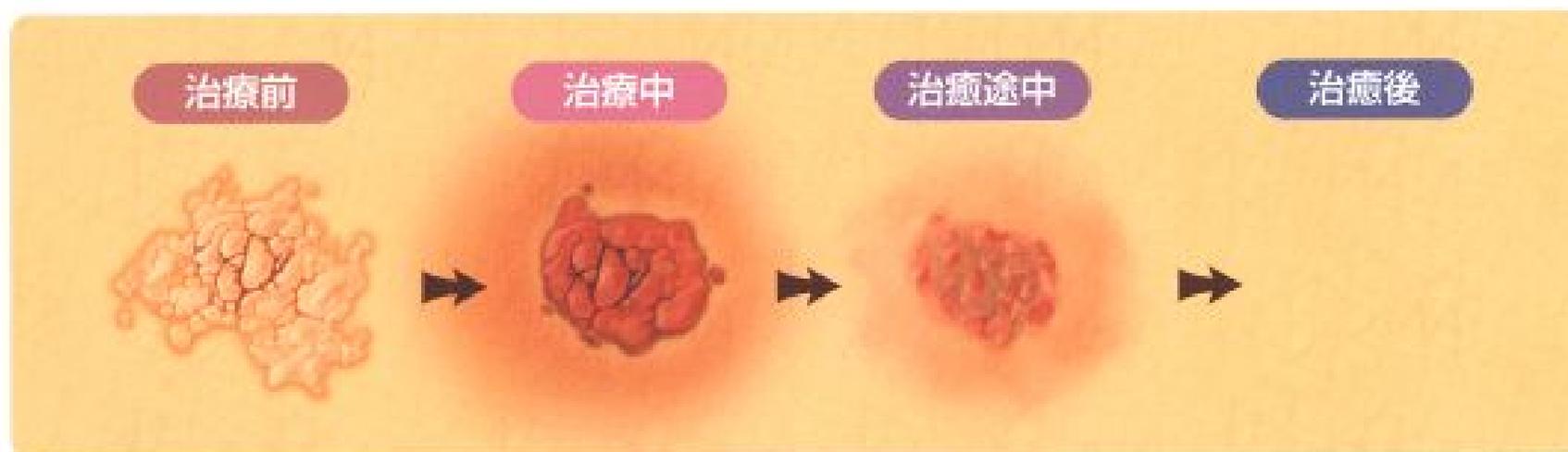


6~10時間後を目安に、ベセルナクリームを石けんと水やお湯で必ず洗い流してください。男性の方で、包皮内のイボを治療している間は、毎日包皮を反転させた上で患部を洗い清潔に保ってください。

もしぬり忘れてしまった場合には、次の日の就寝前に使用してください。その後2日間連続で使用しないようご注意ください。

ベセルナクリーム塗布時の症状の経過と副作用

➔ ベセルナクリーム塗布の際の症状の経過 (イメージ図)



お薬を患部にぬると、お薬の成分が作用するため、患部やその周辺の赤み(紅斑^{こうはん})、ただれ(びらん)、表皮がはがれる(表皮剥離^{ひょうひはくり})などがあらわれることがあります。

⇒ ベセルナクリーム使用中の副作用と対応

お薬を患部にぬると、**患部やその周辺の赤み(紅斑)、ただれ(びらん)、表皮がはがれる(表皮剥離)**などが高い頻度であらわれることがあります。

症状が強い場合はお薬を石けんと水やお湯で洗い流し、すぐに医師などにご相談ください。
(症状が弱い場合でも、気になるときは医師などにご相談ください)

気分が悪くなったり、熱が出たり、筋肉が痛くなるなどの**インフルエンザ様症状**があらわれることがあります。

医師などにご相談ください。

患部やその周辺にあとが残る(色素が沈着したり、逆に色素がぬける)ことがあります。

ベセルナクリームの間違った使い方

➔ 以下のような使い方は、副作用の原因となります。

1

毎日続けてぬる

2

長い時間ぬったままにする

3

患部にお薬を厚くぬる

4

お薬を洗い流すのを忘れる

5

尿道、腔内、肛門内にぬる

6

外性器または肛門周囲
以外のイボにぬる

7

キズのある患部にぬる

8

ぬった部分を絆創膏や
テープなどでおおう

9

お薬をぬった手で、
患部以外をさわる

ベセルナクリーム使用中のご注意



「赤み」、「ただれ」などが気になる時は
医師に相談の上、休薬時期や期間を
設定して最後まで治療を継続してください。

あなた自身の免疫能が活発になった“あかし”として、「赤み」、「ただれ」などの症状があらわれることがあります。こうした症状が強い場合は、お薬を洗い流し医師に相談してください。計画的に治療を中断(休薬)することで、治療効果が維持できます。



ご自分の判断でお薬の使用を止めない
てください。医師が治ったことを
確認するまでは、お薬を塗り続けましょう。

これまでの治療成績では、治療を開始してからイボが無くなるまで約8週間という結果が得られています。完全に治る前に治療を止めると、残っていたウイルスによってイボが大きくなる可能性があります。



イボが無くなったことを医師が確認
してから、少なくとも約3カ月は再発
に注意し、気になる場合は医師の診察を受
けるようにしてください。

手術で取り除いても、お薬で治療しても、ウイルスが残ってしまい、3カ月ほどして再びイボが出てくる(再発)ことがあります。



お薬が患部についている間の性交渉
(セックス)は避けてください。

セックスパートナーにお薬が付き、かぶれ紅斑、かぶれびらん、かぶれ表皮剥離
などの皮膚障害があらわれることがあるため、お薬が患部についている間の性交渉(セックス)は避けてください。コンドーム・ベッサリーなどの避妊用ラテックスゴム製品の品質を劣化・破損する可能性があるため、お薬をぬった部分との接触を避けてください。